

朗読・群読の教育的効果～成就感・満足感その3『平家物語』～

朗読・群読に対する成就感・満足感

《生徒の自己評価カードから》

【『平家物語』音読練習の段階】

- 平曲がとてもおもしろかった。普段は聞けないようなものを聞けてよかった。
- プロの群読や平曲を聞けてよかった。この前よりも話がわかるようになってよかった。
- 平曲はゆっくりした歌い方なので、独特なものが感じられた。山場のところは激しく歌っているのがわかった。
- 扇の的の話の内容がよく分かり、プロの群読が聞けてよかったと思う。
- みんなで読んだりしておもしろかった。テープを聞いたことがよかった。
- 前よりはうまく読めるようになったと思う。テープで聞いたようには読めないけれど、もっと感情を込めて読めるようにしたい。

【『平家物語』内容理解の段階】

- 前の時間に源平合戦のことをいろいろと説明してから授業に入ったので、おもしろいし楽しかった。
- おおよその内容は分かった。でも、まだ読めないので読めるようにし、情景を思い浮かべられるようにしたい。そうすると、よりいっそう読みやすい。
- 源氏と平家の合戦の歴史がおもしろかったので、「平家物語」の古典は好きになりそうだ。
- 歴史はあまり好きではないけれど、話を聞いているとおもしろくなってきた。これを機会に社会の成績も上がらないだろうか。
- 歴史で一度かるく習っていたけれど、楽しくわかりやすい授業だったのでためになった。

【『平家物語』群読学習後の段階】

- 一人で読むより、この話は群読の方がいいなと思った。それはみんなで読むと迫力が出るからだ。
- 一人一人がしっかり声を出していて、とてもよい群読ができたと思う。
- みんなで一団となってやった群読はすばらしかった。練習もみんなと頑張ってやって楽しかった。
- 今まで群読というと4～6人くらいでしかやったことがなく、38人で群読をするというのは初めてだったので、とてもおもしろかった。
- みんな自分の役になりきっていて、楽しかったしよかった。
- 群読した中で自分の役割を果たすことができてよかったと思う。また、与一や義盛など一人で読んだ人がとても上手で、その状況が目には浮かんでくるような感じがした。
- みんなで群読してなんか「扇の的」の雰囲気がつかめた気がした。最後の方では前にテープで聞いた大人の人たちほど上手ではないけれどもうまくできたのでよかった。

《教師の観察結果から》

- 古典の場合、どの作品の学習でも初期の音読練習の段階では、授業に対する満足度は低い。なぜなら、思うようには読めないからである。これは裏を返せば、うまく読めるようになりたいという意欲の表出とも考えられる。同じ音読練習の段階でも、『徒然草』『枕草子』『平家物語』と学習が進むにつれて、満足度は上がる。着実に読む力がついてきて、歴史的仮名遣いにも慣れてくるためであろう。様々な形で読む練習をし、その結果読めるようになり、楽しくおもしろい授業であれば、成就感や満足感を得やすいことがわかった。